

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	①	防災行政無線同報系デジタル化整備事業	
担当課名	総務課		所属長名 堀 江 一 弘
関係課名			

1. 事業の目的						
○老朽化した防災行政無線施設をデジタル機器（屋外拡声子局・戸別受信機）への更新整備することで、地域住民へ災害時等に迅速かつ的確な情報伝達を行う。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○防災行政無線屋外拡声子局を年次計画でデジタル化更新整備していく。 ・計画期間：平成27年度～平成31年度 ○防災行政無線戸別受信機を年次計画でデジタル化更新整備していく。 ・計画期間：平成29年度～平成33年度				○有川地区における防災行政無線拡声子局のデジタル化更新整備を行った。（事業費169,600千円） ・屋外拡声子局新設36局 ・屋外拡声子局スピーカー更新1局、 ・簡易中継局新設3局、 ・再送信局新設1局、 ・遠隔制御装置設置1台、 ・操作卓改造1式		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	169,600千円			169,600千円		0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○住民の生命及び財産を守るための迅速かつ確実な情報伝達機能の充実により、安全を実現できる体制づくりが図られている。				○特になし。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○近年、予測しがたい災害の発生が増加しており、迅速かつ的確な情報伝達を行い、住民の生命及び財産を守ることができるよう、年次計画で確実なデジタル化整備を推進する。						

担当課評価	B	○本事業は、防災に関する情報提供等、住民の生命及び財産を守るために整備するものであり、計画どおり事業を実施できたことにより、既存機器が使用不能となる前に不測の事態に備え最新機器を整備し、住民に対し防災に関する情報等を提供できる。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	②	消防団員安全装備整備事業【新規】	
担当課名	総務課		所属長名 堀 江 一 弘
関係課名			

1. 事業の目的						
○近年、予測しがたい災害の発生が増加しており、記録的豪雨による大規模な土砂災害などの災害発生時（風水害・地震・火災等）に即応出来る消防団員の、安全靴等の安全装備を整備することにより2次災害を防ぎ、消防団員の活動の効率化及び安全面の対策を図り、消防団員の確保に努め、更には災害に強い住み良いまちづくりを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○消防団員の安全装備品の充実を図る。				○取り組み実績なし。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○取り組み実績なしのため、成果なし。				○財源の確保が課題となっている。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○複数年度による分割購入を検討していく。						

担当課評価	C	○団員の安全対策を図る事業は、団員の郷土愛護の精神にも応えることができる事業であり、また、安全面への配慮は、新入団員の加入を呼びかけるうえでも重要な点であることから、団員の増加につながる本事業は継続して実施する必要がある。
委員評価	C	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	③	消防訓練・講習を通じた消防団員確保事業【新規】	
担当課名	総務課		所属長名 堀 江 一 弘
関係課名			

1. 事業の目的						
○各種災害等に即応できる消防団員数が減少傾向にあるため、各地区で住民に向けての消火栓説明会や訓練等の実施、更には消防団員募集の広報活動を行ない、広く住民に消防団活動への関心や、必要性を理解して頂くとともに消防団員の確保を目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○消火栓説明会の開催や団員募集の広報活動				○消火栓説明会の開催や団員募集の広報活動を実施した。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○消防団の活動を住民へ周知することができ、消防団活動への関心や、必要性を理解して頂いている。				○限られた地区での取組であるため、町全体への周知、広報活動とはなっていない。 ○入団の対象となるような若者の参加者が少なく、直接的な呼びかけができない。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○新たな開催地区の開拓や、若者が集まりそうな場所での広報活動も検討していく。						

担当課評価	B	○今後も消防団の現状や活動内容を住民へ周知していく。目に見えた成果は感じ難いが、継続して実施していく。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	④	自主防災組織設立事業【新規】	
担当課名	総務課（消防防災室）		所属長名 堀 江 一 弘
関係課名			

1. 事業の目的						
○近年、自然災害により各地に大きな被害が発生しており、その態様も多様化、局地化、大規模化している。このような中、地域住民の備えと互いの助け合いが大きな役割を果たすことが改めて認識されている。このため、自主防災組織の新規結成に要する費用の助成及び既存組織の活動促進を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○組織結成、防災訓練・防災意識の高揚、資機材整備に要する費用を補助する。				○新規結成事業として1組織（江ノ浜地区）に補助を行った。（49千円） ○防災用資機材充実事業として3組織（浦桑・東神ノ浦・漁生浦地区）に補助を行った。（133千円） ○新規結成へ向けての地区説明会を6回行った。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	182千円					182千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○地域住民の日常生活の安全確保体制の強化及び防災意識の高揚に繋がった。				○目標の新規結成組織数達成及び自主防災組織についての地区長等への説明会が目標回数に達しなかった。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○新規結成組織数の増と既存組織の活動促進に向けて、従来どおりの文書による依頼に加え、地区長・駐在員会議による説明及び電話により積極的に働きかけを行っていくことも必要である。自主防災組織の重要性・必要性を根気強く説明し、新規結成に繋げる。						

担当課評価	B	○当初は、3つの組織の新規結成、地区長等に説明会の場の設定を打診し、15回程度の地区説明会を予定していたが、達成できなかった。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑤	災害備品・備蓄品整備事業	
担当課名	福祉長寿課		所属長名 萬 屋 三 男
関係課名	総務課（消防防災室）		

1. 事業の目的						
○震災時等において、家屋の倒壊、焼失等により、多数の避難者、負傷者の発生が予測される中、町民自らが非常用持出品として食料品等の備蓄をすることを基本としつつ、非常用持出品を持ち出せなかった避難者等のための食料品等について備蓄を行い、災害発生に対応することを目的とする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○町全体の備蓄目標量は、およその町人口20,000人×5%×3日分であり、5ヵ年(10ヵ年)で整備を進める。 ①アルファ化米6,000食、②ミネラルウォーター9,000L、③毛布1,500枚(10ヵ年)、④ポータブルトイレ消耗品（排使用袋）300個・（排便以外）1,500個について計画的に整備する。 （※内20%は住民自ら備蓄することを想定）			○平成28年度の備蓄品等の整備実績（事業費1,034千円） ①アルファ化米 1,200食 ②ミネラルウォーター 1,800L ③毛布 150枚 ④ポータブルトイレ消耗品（排使用袋）50個・（排便以外）260個 ポータブルトイレ本体5台・トイレ用テント5張を整備した。 役場本庁及び4支所に配置。			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	1,034千円					1,034千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○平成28年度は、幸いにも災害備蓄品を使用する災害がなかった。本事業も、2年目となり予定どおり、用品の備蓄が進んでいる。 ○また、有川総合体育館の改修により、災害備蓄庫が完成し、災害に対する備えが高まって来ている。			○災害備蓄は、個人の備蓄が重要であり、また、町が実施した災害備蓄の現状の周知が不十分だった。 ○また、必要とされる新たな災害備蓄用品も検討していく必要がある。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○消防防災室と連携し、災害に備えた個人備蓄の必要性の啓蒙、町における災害備蓄状況の周知、流通備蓄の協力を進めていく。						

担当課評価	B	○町の備蓄品等については、計画的に整備している。住民への災害備蓄の重要性等の周知が不十分だった。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑥	防犯灯設置補助事業	
担当課名	財産管理課		所属長名 橋 口 文 四 郎
関係課名			

1. 事業の目的						
○地域の犯罪防止を図るために、各地区が行う防犯灯の新設及び補修に要する経費に関して補助金を交付する。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○各地区が設置する防犯灯の新設及び補修に要する経費について、その経費の全額を補助する。				○各地区で126基の防犯灯の新設・補修等の補助金を交付し、地域の犯罪防止など防犯対策の拡充が図られた。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	5,161千円					5,161千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○防犯灯の新設と補修に対する助成としているが、この機会にLED灯への切り替えが進んでいるところもあり、省エネ化も図られている。				○既設防犯灯の老朽化が進んでおり、補修・更新数の増加に対応する必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○各地区において、防犯灯の新設・補修の優先順位を十分検討の上、補助申請を行ってもらう必要がある。						

担当課評価	B	○毎年度、防犯灯の新設及び補修等の支援の申請があっており、安全・安心な地域づくりのためにも本事業は継続すべき。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	②	安全な暮らしを守る地域づくり	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑦	自然災害防除事業（国・県事業含む）	
担当課名	建設課		所属長名 本田 雄 喜 治
関係課名			

1. 事業の目的						
○国・県と連携を図りながら、砂防ダム整備事業、急傾斜地崩壊対策事業及び河川等整備事業を推進し、山地の崩壊や土砂の流出、河川の氾濫等による災害の防止を図り、住民生活の安全・安心を確保する。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○砂防ダム整備事業、急傾斜地崩壊対策事業及び河川等の整備事業を行う。				○自然災害防除事業 10,592千円 【県営事業負担金】 ・小奈良尾地区急傾斜地崩壊対策事業に対する 地元負担金 2,500千円 （町で地権者の同意書を取得） 【町単独事業】 ・佐野原地区排水路整備 L=9.1m及び 小田迫川護岸整備 L=20.7m 8,092千円		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	10,592千円			7,500千円		3,092千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○財源が厳しい中であるが、自然災害防除事業は計画的に執行されており、住民生活の安全・安心を確保することに繋がっている。				○事業実施のための用地取得・施工承諾等が困難な案件がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○県営事業については、粘り強く事業の必要性等を地権者へ説明し、同意・承諾を得るとともに、県への事業採択要望を続けていく。町河川整備については、予算を要求し、今後も事業を継続する。						

担当課評価	B	○住民の安全・安心を確保するために、計画的に事業は進捗しており、今後も継続すべき。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。